

民間クリニックにおける効果的な HIV 即日検査の実施と

質の向上のための研究

研究分担者 井戸田 一朗（しらかば診療所）
研究協力者 佐野 貴子（神奈川県衛生研究所）
近藤 真規子（神奈川県衛生研究所）
今井 光信（田園調布学園大学）

研究要旨

民間クリニックにおける HIV 検査は、PICT と VCT の 2 つの modality がある。本分担研究では、HIV 検査実施のモデルとなる医療機関とのネットワークの（再）確立を目的に検討を行った。次年度より、ウェブサイト掲載基準の決定、既存の協力施設との連携、新規施設公募を実施する予定である。

A.研究目的

HIV 検査実施のモデルとなる医療機関とのネットワークの（再）確立

B.研究方法

既存の HIV 検査研究班で 2014 年までに確立された、41 箇所 の HIV 即日検査を実施する民間クリニックとのネットワークは、2015 年 3 月に HIV 検査研究班の終了に伴い、喪失したものの、検査研究班ウェブサイト(<http://www.hivkensa.com>)には引き続き掲載されている。PICT 及び VCT のいずれかの手法による、HIV 検査実施のモデルとなる医療機関とのネットワークの再確立のあるべき手法を明らかにすることを目的に、少人数でのグループ（今井光信：田園調布学園大学、近藤真規子：神奈川県衛生研究所、佐野貴子：神奈川県衛生研究所）で検討を行った。

（倫理面への配慮）

特に無し

C.研究結果

- 当初のコンセプト：保健所では限られた時間しか検査ができない、お金はかかるがアクセスのよい民間クリニックの窓口を広げ、研究班ウェブサイトで紹介し、即日検査陽性例は、研究班で確認検査を実施し、試薬開発やウィルス解析を目的とする研究を実施してきた。現在も 41 箇所の施設はウェブサイトに掲載されている。
- 今後、VCT 目的の受診を受けてもよい、という施設をウェブサイトで提示し、情報提供のみ行う。審査や参加基準をどうするかをクリアにし、一覧で掲示。（i.e. データを定期的に研究班へ送信頂く）
- 受検者からのクレームが入ったときの対応を決めておく。（i.e.続いたらウェブサイトから排除）
- ウェブサイトに掲載（新規・継続）する上で条件をオープンにする（ie 書類審査→書類・誓約書やり取りを半年～1 年毎に行う）
- 即日検査にこだわらず、検査手法を明記して頂く。

- 上記の流れをウェブサイト上でオープンにし、応募を待ってみる（現在でも衛研に問い合わせあり）。
- 応募状況により、保健所に紹介してもらい、井戸田が個人的にアプローチする、といった方法を追加。
- 集計に対する謝金を研究費より衛研へ捻出。
- すでにメンバーとなっていた 30 余施設に優先的にアプローチ（情報提供、お願いに留める）→ウェブサイト上でオープンにし、条件に当てはまるかどうかの選考を研究班で行う。

D.考察

2017 年度より、

- 1) ウェブサイト掲載の基準を決定
- 2) 既存の協力施設への通達と意思確認
- 3) 新規施設の公募

を実施するための検討を継続する必要がある。

E.結論

既存の HIV 検査研究班において確立された HIV 検査実施のモデルとなる医療機関とのネットワークの（再）確立を目的に検討を行った。次年度より、ウェブサイト掲載基準の決定、既存の協力施設との連携、新規施設公募を実施する予定である。

F.健康危険情報

無し

G.研究発表

無し

H.知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

無し